

## 議員定数削減巡る住民投票は不成立 山口・山陽小野田市

朝日新聞 2013年04月07日

山口県山陽小野田市で7日、市議会の定数24を20以下とすることの賛否を問う住民投票があった。だが、投票率は45・53%で、条例が成立の条件と定める50%を切って不成立となり、開票されなかった。【具志堅直】

議員定数の削減を目指す動きは各地で相次いでいる。ただ、住民投票の活用を呼びかける市民団体「国民投票／住民投票情報室」（大阪市）によると、議員定数削減を問う住民投票は全国で初めて。当日投票資格者数は5万2479人。

今回の住民投票は、市の財政難を背景に定数削減を長年求めてきた市民団体が条例に基づき、有権者の6分の1（8897人）を上回る1万1809人分の署名を集め、直接請求した。一方、定数は議会で決めるべきだと主張する市民団体が、市民に反対票の投票や棄権を呼びかけた。

市の条例は、住民投票に関する活動を規制していない。だが、市長選と同時実施となり、各団体は公職選挙法に抵触する可能性があるとして、選挙期間中の活動を自粛。これも投票率が50%に達しなかった一因とみられる。市長選の投票率は46・13%だった。

元神奈川県逗子市長で住民投票問題に詳しい龍谷大の富野暉一郎教授（行政学）は「議員定数問題が市民全体で考えるべき論点として未成熟だった結果だろう。同時実施の市長選に引きずられ、市民の意思表示の意味合いが薄まったかもしれない」と指摘した。